

(様式 2)

女性就農環境改善計画

実施主体名	富田林市の農業を創造する会（女性部会）
取組	女性の就農環境改善緊急対策事業 （2）地域の女性農業者グループの活動支援
構成員数	37名（女性部会 5名を予定） 令和4年4月時点

1 事業実施方針

富田林市は、市域中央部を南北に流れる石川を含む中央平野部と、金剛山系に連なる南部山間部、西部の丘陵部から構成され、農地は主に石川右岸の平野部と南部山間部に数多く存在している。特に平野部の西板持・彼方地区は良質な農地となっており特色ある農産物生産が盛んである。農業生産・販売面については、大都市近郊農業のメリットを活かし、新鮮で安全な農産物供給力の強みを活かした販路の確保のほか、指定産地であるナス・キュウリに加え、トマト・えび芋をはじめとする農産物特産品のブランド化の推進、地元農産物の学校給食の利用や、富田林市「サバーファーム」内「にこにこ市場」での地域住民向けの販売等、地産地消も促進されている。

一方、本市においても少子高齢化・人口減少社会が進行し、農業従事者の高齢化や後継者不足が大きな課題となっている。その対応策として、新規就農者育成を目指した「富田林市きらめき農業塾」が2021年に立ち上がり、市内外から17名の受講生を迎え地域農家で指導を行っている。産地としての生産力の維持し、優良農地を次世代に継承するべく尽力している地域である。

本地域は経営者、従業員問わず女性農業者が多く存在する。また農業塾の受講生等これから新規就農を希望する女性は多く、今後の農業を担う存在として重要性を増してきている。

一方で、本地域はナス・キュウリの産地型農業を営む経営体だけでなく、都市近接の強みを活かした観光農園や近隣消費者をターゲットとした少量多品種の生産・販売を行う農家など、経営スタイルの多様性が大きい。そのため、各々の農家で繁閑が異なり、結果としてグループで一体となった活動が難しかった背景があり、女性グループ等はこれまで組織されてこなかった。

地域農業者における女性の存在感が高まりつつある中で、現状は、トイレ・休憩室等は決して女性にとって好ましい（働きやすい・過ごしやすい）環境とは言えず、今後は男女問わず居心地の良い就農環境に向けて改善を重ねていく必要がある。また、そうした空間づくり・仕組みづくりにおいて、その在り方を決めるための意見交換や意思決定の場が必要な時期を迎えている。

そこで、本取り組みでは、以下の3点の取り組みを行い、本市における女性就農環境の改善を図る。

- ① グループを立ち上げることで既存の女性農業者が意見交換でき、また今後、地域に女性農業者を迎えやすくするための居場所を作ること。
- ② より良いグループの在り方、空間の在り方を模索するための視察を行い、その学びを活かしたアクションプラン等を検討すること。
- ③ より多くの女性就農希望者を迎え入れるべく①②の取り組みを広く発信すること。

## 2 女性就農環境改善に向けた実施体制

2015年に市内の有志農業者で立ち上げた「富田林市の農業を創造する会」の構成員を中心に、地域内の女性農業者を含む多様性のあるメンバーで「富田林市の農業を創造する会 女性農業者部会」を設立する。実施にあたっては、2021年8月に開講した「富田林市きらめき農業塾」と連携し、女性就農環境の現状に関する講義や圃場見学などを通じ、リアルな情報提供と人的交流機会の創出を図る。

### ◆富田林市の農業を創造する会 女性部会

代表 経営者（ナス・キュウリ・海老芋）

副代表 経営者（ネギ・キュウリ）

構成員 経営者の妻（多品目）

構成員 経営者の妻（ブルーベリー・観光農園）

構成員 経営者の妻（イチゴ・ナス）

### ◆外部連携団体

富田林市きらめき農業塾

責任者、事務局担当者

### ◆その他 講師依頼（予定）

外部講師 （空間コーディネーター）

## 3 女性就農環境改善のため実施している取組及び今後の取組

### （1）女性の就農希望者、新規就農者の呼び込みに向けた取組

内容	成果/目標	備考
（実施中の取り組み） ・ 農業塾の運営補助（塾生との顔合わせ）	2021.8月以降、 毎週土曜実施（計22回）	
（今後の取り組み） ・ 女性農業者との座談会	（実施目標）1回	一般向け
・ 富田林市きらめき農業塾とのコラボ企画 ➤ 女性農業者の現状に関する講義	（実施目標）1回	就農希望者向け （社会人）
・ 農業大学校でのPR、呼びかけ （大阪府立環境農林水産総合研究所）	（実施目標）1回	就農希望者向け （学生）

女性の就農環境について具体的なイメージを持てるよう、一般・就農希望者（社会人・学生）との関係構築を目的とした対外的な情報発信、接点づくりを行う。（2）で行う体験等への参加も促進する。

(2) 女性の新規就農者の農業や地域への定着に向けた取組

内容	成果/目標	備考
(実施中の取り組み) ・ 女性農業者交流会  (今後の取り組み) ・ 女性農業者の連携体制の構築 ➤ 定期的な意見交換、相互フォローが可能な連携体制を構築する ・ 富田林市きらめき農業塾とのコラボ企画 ➤ 女性農家の圃場見学／作業体験	(実績) 年 1 回  (実施目標) 会則等の設定、組織体制の決定  (実施目標) 2 回	2021 年  農業塾受講生 17 名 (うち女性 8 名)

現在、経営者を含む多数の女性就農者がいるが、繁閑の時期が異なり意見交換を行う機会や限られている。各々の立場で日々感じている課題の共有や、助け合いを模索する場として会を立ち上げ活動の基盤を対内的に構築するとともに、農業塾の受講生（未来の就農者）を対象とした圃場見学・体験の機会を設け、対外的な認知を向上させる

(3) 女性農業者の活躍に向けた取組

内容	成果/目標	備考
(実施中の取り組み) ・ 農業委員への選出（山本留以）  (今後の取り組み) ・ 定例会の実施 ➤ 会場は部会参加者の圃場等で持ち回り ・ 先進事例視察（2 地域） ➤ ①活気ある女性グループ ➤ ②参加者の経営に資する経営体 ・ 研修会の実施（講師招聘） ➤ 課題共有（ハード、ソフト両面） ➤ 解決策・アクションプランの作成	(実績) 1 名  (実施目標) 4 回  (実施目標) 2 回  (実施目標) 2 回	農地利用最適化推進委員  お互いの現場から学び合う目的  ①近畿圏を想定 ②観光、多品目、類似産地、等の切り口で選定

定例会による課題の共有に加え、解決策の検討に資する先進地域・事例の視察を行う。具体的にはトイレ等を含む働きやすい空間の作り方（ハード面）や、グループでの活発な活動の状況やそれを支える仕組み（ソフト面）を学ぶ。

また、視察をヒントに、専門家を招聘しアドバイスを仰ぎながらアクションプランを作成し、地域の既存の女性農業者、未来の女性農業者にとって居心地がよく、働きやすい（協働しやすい）就農環境づくりの基盤を整える。

4 女性就農環境改善事業を活用した取組の計画内容

(1) 働きやすい環境整備への支援

該当せず

(2) 地域の女性グループの活動支援

【計画内容】

時期	内容（対象者・方法等）	備考
2022年5月末	<p>【体制構築】：3（2）の取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 会則等の作成</li> </ul> <p>【定例会】：3（3）の取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 第1回：顔合わせ、年間スケジュール確認</li> </ul> <p>【就農希望者PR（社会人）】：3（1）の取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 女性就農者の現状に関するミニ講義</li> </ul> <p>【農業塾コラボ】：3（2）の取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 女性農家の圃場見学①</li> </ul>	<p>農業塾と連携</p> <p>農業塾と連携</p>
2022年6月上旬	<p>【一般向けPR】3（1）の取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 女性農業者との座談会</li> </ul> <p>【農業塾コラボ】：3（2）の取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 女性農家の圃場見学②</li> </ul>	
2022年7月下旬	<p>【定例会】：3（3）の取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 第2回：課題共有、視察先の決定・調整</li> </ul>	
2022年11月	<p>【定例会】：3（3）の取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 第3回：情報交換、講師派遣調整</li> </ul> <p>【就農希望者PR（学生）】3（1）の取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 農業大学校での説明（マッチング交流会参加）</li> </ul>	
2023年1月下旬 ～2月	<p>【先進事例視察】：3（3）の取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 先進事例視察（2件）</li> </ul> <p>【アクションプラン検討】：3（3）の取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 空間コーディネーター等を招聘しアクションプラン検討（コンサルティング＋実行支援）</li> </ul> <p>【定例会】：3（3）の取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 第4回：事業報告とりまとめ</li> </ul>	

【課題】

①	地域の女性農業者同士が話す機会が少ない。悩みや課題を相談できる場がない。
②	仕事場・休憩所・トイレ等の空間・ハード面が使いづらい・居心地が悪い。 (経理・事務処理を行う場所が整理されていない)
③	悩み事・課題の解決に取り組みたいが活動するイメージが湧かない。

【課題解決のための補助事業（概要）】※課題番号に対応するように記入ください。

①	女性グループの立ち上げ、農業塾や農業大学校での会員募集（各年1回） および悩み事や課題を共有するための定例会の実施（年4回）
②	書類整理や居心地の良い空間づくりに向けた専門家の招聘、講義・コンサルティング、 アクションプランづくり（年3回）
③	グループの方向性を検討するための先進的活動グループ・経営事例の視察（年2回）

【事業成果と今後のプラン】

①	女性が相談しやすい場所を作り、男女関係なく農業に挑戦できる・しやすい環境を整備する。農業生産・販売に関わる知識・経験値を共有しレベルアップを図る。随時、LINEグループで共有し、相互の教え合いを通じ課題解決の経験を蓄積する。 (年4回程度の定例会実施を通じた、継続的な情報交換の機会の維持)
②	各農園の圃場、事務室を定例会時に相互に見学し改善可能な点を指摘し合う（年4回）。 適宜、専門家を招聘し、アドバイスを求める（年1回程度）
③	グループの活動に資する視察、グループ農家の経営モデルの参考になる視察、をそれぞれ1件ずつ行う（計年2回）

【事業内容（詳細）】

課題番号	時期	グループ活動内容 (対象者・方法等)	事業実施経費 (費目、金額)	備考
①	2022年5月 2022年7月 ~2023年1月	対象者：グループメンバー全員 定例会 年4回 農業塾コラボ 2回 グループ設立に向けてた会則の作成、 農業塾とのコラボ企画の検討、 備品の購入	消耗品費 34,800円 謝金 150,000円 会議費 9,600円	謝金規定に 基づき算出
②	2023年2月	対象者：グループメンバー全員 専門家派遣3回：空間面の改善に向けた 講義・コンサルティング	謝金 150,000円	謝金規定に 基づき算出
③	2023年1月	対象者：グループメンバー全員 視察先2件への訪問（近畿圏を想定）	謝金 80,000円 旅費 76,464円	謝金規定、旅 費規程に基 づく算出

5 女性農業者確保の目標

事業実施年度翌年度までの 女性農業者の新規確保人数	8人
(新規確保女性農業者の内訳) 自営農業就業者 2人、雇用就農者 1人、アルバイト・ボランティア等 5人	

